

協議会ニュース 146号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2015. 3



マツボックリ（アカマツ）とエビフライ（リスの食痕） 木村 絢子（尾張支部）

【募集】通常総会・講演会	事務局 石原 則義2
【報告】ESD 併催イベント・ブース出展報告	名古屋支部 石原 則義3
	滝田 久憲	
協議会交流の日	名古屋支部 滝田 久憲4
	岡田 雅子、布目 均5
きのこを学ぶ	西三河支部 馬場 隆之6
蛇紋岩地の自然観察	東三河支部 中島 芳彦7
尾張支部総会報告	尾張支部 齋竹 善行8
東三河支部総会報告	東三河支部 寺本 和子	
【連載】海外のインタープリテーション	東三河支部 中西 正9
第1話 イタリア シチリア島エトナ山		
私の活動紹介	西三河支部 水谷 宗保10
理事会報告（平成 26 年第 4 回）	事務局 石原 則義11
“協議会”として、がんばっています！／編集部から	12

= 平成 27 年度通常総会・講演会 =

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を下記の通り開催いたします。総会は一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定します。日頃出会う機会の少ない遠方の会員の皆様との交流の場にもなります。是非、皆様ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：平成 27 年 3 月 21 日（土・春分の日）13:30 ～

場所：名古屋市中心企業振興会館（吹上ホール）4 F 第 3 会議室

〒464-0856 名古屋市中千種区吹上二丁目 6 番 3 号

TEL：(052) 735-2111

交通機関：地下鉄「吹上」駅下車 10 分、または J R 「鶴舞」駅下車徒歩 20 分

名札をご持参
ください

= 次第 =

13:15 受付開始

13:30 平成 27 年度通常総会開会宣言

- 1) 総会参加者数の報告
- 2) 平成 26 年度の協議会各理事紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事

①第 1 号議案 平成 26 年度事業報告

②第 2 号議案 平成 26 年度決算報告
監査報告

③第 3 号議案 新役員承認

④第 4 号議案 平成 27 年度事業計画(案)

⑤第 5 号議案 平成 27 年度予算(案)

⑥質疑応答・その他

14:30 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

14:50 講演会

演題：「インタープリターの地球一周」

講師：中西 正 愛知県環境審議会専門員 元県協議会会長

1949 年愛知豊橋市生まれ。新潟大学大学院理学研究科修了

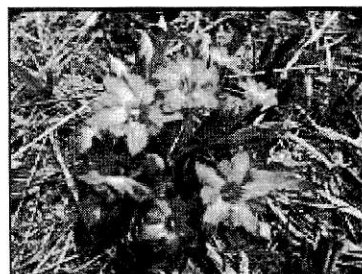
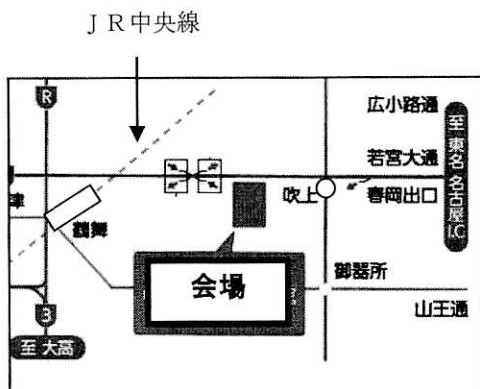
著書「里山の生態学」（共著）2002 名古屋大学出版会他

16:10 閉会・後片付け

16:30 会場退出

※ 当日の緊急連絡先 事務局：石原 携帯・090-8607-6712（当日のみ）

※ 総会終了後、懇親会 17:00～（希望者は各支部長に事前連絡）



ESD併催イベント・ブース出展 報告

レポート：名古屋支部 石原則義
滝田久憲

1 久屋広場

平成 26 年 11 月 8 日(土)～9(日)に久屋広場にて、ESD(持続可能な開発のための教育)ユネスコ世界会議の併催イベント「あいち・なごや ESD 交流フェスタ」に、ブース出展の機会があり、理事会に諮ったうえで、愛知県自然観察指導員連絡議会として参加しました。

ブースでは、尾張支部、名古屋支部、知多支部の紹介パネルやCOP10に合わせて作成した奥三河のパネルのほか、尾張支部、西三河支部、知多支部からご用意いただいた作品を展示しました。

パネルや作品などの飾りつけは、前日の7日(金)に行いました。



▲久屋広場での展示の様子

イベント当日は、名古屋支部が中心となり対応しました。

相生山緑地自然観察会からは、久屋広場会場で“ヒメボタルかるた”の取り組みを発表しました。また来場者から、指導員にはどうしたらなれるかという質問もありました。

出展にあたり、ご協力いただいた方に感謝いたします。

2 白鳥会場

平成 26 年 11 月 10 日(月)～12 日(水)にESDユネスコ世界会議併催イベント白鳥会場内に設営される環境交流ブース「見て、知って、考えて、行動しよう!みんなの環境ひろば」については、9月に名古屋市環境局から参加募集のアナウンスがあり、理事会に諮る時間がなかったため、名古屋支部独自で参加することとし、県協議会の活動もアピールすることにしました。

時間のなかでA1サイズのパネルを3枚作成し、環境ひろば内に設置されたブースに展示し、活動紹介などを行いました。

また、イベント初日の午後にはステージ上で会の活動を発表する機会を得たので、愛知県の自然の特徴や自然観察会の話などを行いました。白鳥会場での開催が平日であったために、ブースへの来場者も限られていましたが、他の団体との交流もあり、有意義な3日間でした。



▲白鳥会場での展示の様子

協議会交流の日報告

名古屋支部 滝田久憲

【日時】 平成 26 年 11 月 24 日(振)

【天候】 晴れ

【場所】 大高緑地 (名古屋市緑区)

【プログラム】

10:15～11:45 自然観察会：大高緑地

12:00～13:00 昼食：さくらの園

13:30～15:00 交流会：管理事務所 2 階講習室

【参加者】 43 名 (内、名古屋支部 21 名)



▲午前の部 自然観察の様子

午前の部は、大高緑地自然観察会のスタッフである山田千宏会員、服部光孜会員、鈴木重蔵会員、山田妙会員、高松一史会員の案内で大高緑地の自然観察を行いました。参加者が多いこともあり、一般コースと健脚コースの 2 班に分かれて管理事務所前を出発しました。

観察会の後、管理事務所の近くにある“さくらの園”で昼食をとりました。名古屋支部の女性会員が用意した暖かい豚汁などを頂きましたが、観察会で園内を歩き回り、すきっ腹になっていた参加者は何度もお代わりをしていました。楽しかった休憩時間はあっという間に終わり、午後 1 時半からは交流会を行いました。

今回の交流会では初めて、「自然観察」、「保全」、「環境教育」の 3 つの分科会方式をとりました。時代の変化と共に会員の活動にも幅が出てきており、興味の対象も多岐に渡るようになってきたからです。「自然観察」のグループでは、3 人の方がそれぞれ、自然観察の運営のヒントやクラフト教室での工夫、観察会に参加した子どもがオタマジャクシを持ち帰り、家で飼育観察を行ったなどの事例が報告されました。他の参加者からは自然観察の七つ道具などの紹介もありました。また、三重県で実施された講習会に参加し、指導員になったばかりの方から貴重な話が聞けたようでした。「保全」のグループでは、小幡緑地や島田緑地、壱町田湿地などでの活動事例が紹介され、市民、行政、湿地の植生管理の専門家などの連携プレーの大切さなどが話し合われました。「環境教育」のグループでは名古屋支部が実施している環境教育に関わる活動 (ESD) の紹介の後、グループの中に学校関係者がいた関係で学習指導要領に縛られた教育現場での現状や児童が使用する学習ノートから昆虫の写真が消え、自然離れに拍車をかけているなどの話がありました。また、小学校の低学年の授業に関わっている会員との交流をもっと増やし、お互いの棲み分けを明確にしたらどうかといった意見もありました。最後に、実際に活動を行っている会員からの活動報告や情報交換などがなされました。

地域で活動している会員は様々な問題を抱えています。こうした問題解決のためのネットワーク作りが今後の県協議会の役割だと実感しました。

一般コース報告

名古屋支部 岡田雅子

広々とした公園内では、トレーニングをする大学生のグループ、ドッグランに集う犬と飼い主、ベビーカーの親子連れと、さまざまな世代が楽しんでいました。コースの途中に白い地層が露出している場所があり、「これはクレンザーに利用していました。」という珪砂の白い砂粒を手にとってみました。しばらく行くと、「これからはまだ手つかずの所が多い場所に入ります。」との説明のあった少し薄暗い道を進みました。また、通常の観察会では訪れない谷筋にも入り、湧水でできた水溜りなどを見学しました。参加者の中から、「落ち葉がたまっていると、雨水が地表まで届かず蒸発してしまうことが多い。こうしたことが、湧水が減少している原因の一つとも考えられています。」との話があり、そうかもしれないと思いました。その後は竹林を抜け、万葉集に出てくる植物とその横に和歌が添えられた看板などを見ながら出発地点に戻りました。

健脚コース報告

名古屋支部 布目均

この日は天気も良く、街路樹、雑木林で色づく木があり、モミジバフウが真っ赤に紅葉しておりました。保全林の周辺を観察しましたが、竹の浸食等で荒れている場所もありましたが、人の手により管理された竹林もあり、竹囲いで雰囲気のある散策道がありました。ここはヒメボタルの生育地となっており、飛ぶ時期には、夜の観察会や、幼虫調査を行っているとのこと。林を抜けて、芝生広場から展望台に登ると、大高緑地公園を上から眺めることができました。また、名古屋駅のビル群、東山タワー、猿投山なども見ることができました。満開の四季桜で、紅葉と桜が楽しめた観察会でした。



▲午後の部 交流会の様子



研修報告

きのこを学ぶ

日 時；11月2日（日）9:00～15:00

場 所；豊田市自然観察の森

参加者；名古屋支部2名、尾張支部1名
西三河支部13名 一般1名 合計17名

森の中でのきのこの観察と、教室ではスライドを用いて、きのこの自然界での役割や人とのかかわりを会員間で研鑽しました。

観察では採取しないこととしました。当たり前のことだと思います。しかし、きのこの種を同定する場合、ヒダの疎、密や柄とヒダのつながり方、触ったときの色の变化、匂い、味など総合的に観て判断する必要があるために、採らないでそのままの状態を見て判別するのは、難しい場合があります。同定会でなく観察会なので、生えている環境から自然界での役割を知ることや、形や色の特徴から大雑把に種を分類すれば充分なのでしょうが、採って触ってよく観ることや細かい特徴を知ること、さらに興味が湧くこともあります。一般的なきのこの観察会は参加者が少しずつ採ってきたものを分類し、名前を付けて、個々の性質や食毒などを解説していきます。しかし故意ではないものの、必要以上の採取や、扱い方の悪さで壊れて判別できなくなってしまうものもあります。加えて、たくさんの人が森を歩くことになり、自然環境に対して負荷の高いこともしばしばあります。自然に優しく、参加者が満足できる観察会を考えるよい機会でもありました。

観察できたきのこは以下のようでした。
「アカヤマタケ、ヒラタケ、ムラサキシメジ、ワサビタケ、ハナオチバタケ、クヌギタケ、カバイロツルタケ、ウラベニガサ、イタチタケ、ムササビタケ、ニガクリタケ、ムラサキアブラシメジモドキ、ミドリスギ

西三河支部 馬場隆之

タケ、ムツノウダベニタケ、クサウラベニタケ、チチアワタケ、カワリハツ、ニオイコベニタケ、ドクベニダマシ、チョウジチチタケ、キチチタケ、チャウロコタケ、ケシワウロコタケ、カミウロコタケ、ハナウロコタケ、ハチノスタケ、カワラタケ、ハカワラタケ、カイガラタケ、キカイガラタケ、クジラタケ、ホウロクタケ、ニクウスバタケ、ヒイロタケ、オオミノコフキタケ、ネンドタケ、ネンドタケモドキ、ツチグリ、ホコリタケ、クチベニタケ、ハナビラニカワタケ、タマキクラゲ、ムラサキゴムタケ、カエンタケ、クロコブタケ」45種 他にも特定できないものが何種類かありました。



ムラサキアブラシメジモドキ

教室では、生態系での分解者としての役割。植物やきのこ同士の共生や寄生の関係。加えて、各地域で独特に発達した食文化であるところの、北海道・長野県民の「ハナイグチ」、栃木県民の「チチタケ」、千葉県民の「ハツタケ」、群馬県民の「ウラベニホテイシメジ」の熱狂的關係とその調理法を知り、きのこに関連した知識を深めた一日でした。

蛇紋岩地の自然観察

日 時：11月2日（日）9：30～11：30

場 所：旗頭山（ハカシヤマ）

参加者：一般参加者20名、指導員22名

旗頭山は豊川市の東部金沢町内にある蛇紋岩で形成された小さな山です。その景観は付近の景色と少し違って見えます。塩基性が強いため樹木が矮小化しているの、なだらかな草地の丘のような感じがします。

観察地一帯は「旗頭山尾根古墳群」として愛知県指定史跡となっています。古墳は6～7世紀に造られ、朝鮮半島の影響を受けたと言われています。石を積み上げたり、石材と土を併用したりして造られているのが特徴です。

この地域にも鹿や猪が出没するため、古墳群を獣害から守る柵が張り巡らされました。このため柵の中に入り自然観察を行うような気持ちになります。

観察会当日は雨の予報でしたが実施中は薄日も差し込むまで回復し、草原での観察のため濡れずに助かりました。秋の旗頭



ムラサキセンブリ

山はムラサキセンブリ、ヤマラッキョウ、ツリガネニンジン、アキノキリンソウが群生し、参加者は「わあー凄くきれい」と歓

東三河支部 中島芳彦



外来植物の観察

声をあげながら深まりゆく秋を満喫することができました。

あいちの自然観察会のテーマである「外来種・絶滅危惧種」の観点で見ると、墓地として開発された旗頭山の周辺部ではセイタカアワダチソウ、キダチノコンギク、オオオナモミ等の外来種がはびこり、柵で囲まれた内側では外来種は見られませんでしたし



ヤナギノギク

た。こうした違いは蛇紋岩からなる超塩基性土壌が外来種などの侵入を難しくしているため生じたものと推察されます。また蛇紋岩地帯特有の貴重植物としてヤナギノギクやムラサキセンブリを数多く観察することができました。

今回の観察会では、指導者の解説は出来る限り少なくし、参加者一人一人が目の前の自然と歴史を感じてもらえる観察会となるようにしてみました。

尾張支部総会 報告

尾張支部 齋竹 善行

日時：1月12日（月・祝）13:30～

場所：東桜会館（名古屋市東区）

尾張支部の総会は19名の参加で開かれ、平成26年度事業報告・決算及び監査報告が承認され、平成27年度の役員、事業計画及び予算が決定されました。

定例観察会は、これまで尾張東部の9箇所で開催されていましたが、4月から西部で木曽川下流定例観察会を追加しました。協議会関係事業としては、「協議会交流の日」を11月23日（月・祝）（場所は今後検討）に、「あいちの自然観察会」を8月23日（日）に日進岩藤川で、研修会を10月31日（土）（場所・テーマは今後検討）に実施することとしました。内容が決まりましたらご案内しますので、他支部の皆さんもご参加ください。

総会に引き続いて開かれた交流会で、「日進岩藤川の15年」と題して鬼頭弘会員が、「昭和30年代の林業（自分の体験から）」と題して山口昌宏会員がプレゼンテーションを行い、それぞれ興味深い話を聞くことができました。その後、場をかえて懇親を深めました。

尾張支部 平成27年度役員

会 長：齋竹 善行

副会長：平井 直人

事務局：内海 勇夫

会 計：木村 眞一郎

監 事：小木曾 三廣

通信編集：高谷 昌志

通信発送：齋竹 善行

HP管理：山田 博一

東三河支部総会 報告

東三河支部 寺本和子

日時：1月31日（土）14:00～

場所：豊橋パークホテル吉祥閣

東三河支部（NPO法人東三河自然観察会）の総会が開催され、出席者は37名、委任状が28名でした。

27年度の行事は昨年と同様、年4回の地域観察会を行うとともに、昨年に引き続き定例観察会を、3月から12月まで（27年度は8月を除く）毎月1回、豊橋公園で開催することになりました。これで3年連続、豊橋公園で定例観察会を行うこととなります。豊橋の代表的な緑地である豊橋公園が、徐々に当会のフィールドとして定着しつつあります。また、三浦半島の1泊研修も予定されました。

このほか県営東三河ふるさと公園の定例観察会、新城総合運動公園の観察会など、いくつかの観察会の受託も行っていく予定です。

総会後には、岩崎員郎会員の「自然を求めて世界一周」と題する講演が行われ、ナミブ砂漠や南極の海などピースボートで回った世界各地の写真を中心に、ボートでの生活の様子なども含め興味深い話を伺いました。

その後、懇親会が行われ、楽しい一時を過ごしました。

東三河支部 平成27年度役員

会 長：寺本 和子

副会長：影山 博史（兼事務局）

岩崎 員郎（兼会計）

連載 世界のインタープリテーション

第1話 イタリア シチリア島エトナ山

東三河支部 中西 正

1. エトナ山で

2012年、船で地球一周する中で、幾つかの自然関連のオブショナルツアーに参加した。その時の「自然と人」についての記憶を記してみたい。

イタリアの南にあるシチリア島。そこにあるエトナ山はヨーロッパの活火山で最も高い山である。その噴火が古くから記録されていることで有名で、2013年、富士山と同じ年にその記録が世界文化遺産に登録された。

頂上近くまではバスとロープウエーそして車で行く。グループにはお年寄りも多く、その装備も心配になる。結果的には、夏の晴れた日本アルプスみたいなもので、日差しは強いが空気は冷えていて、気持ちがいい程度であった。

バスで山岳道路を行くと、溶岩がむき出しで無植生の所があった。最近の噴火の痕であったが、それに接して緑の灌木帯があり、噴火の影響の鋭さを知ることができた。この途中には溶岩に飲み込まれた家も見られた。

ロープウエーの降り駅は土産物屋も完備している。ここで20人乗りくらいのジープ型の車に乗り換え、上を目指す。車が動くものすごい砂ぼこりがたつ。

車を降りたステーションは、エトナ山の肩のような場所だった。そこからのエトナ山の眺めも立派だった。左に見える頂きは表面が白っぽい、それはカルシウムが多いためだという。また右の緑の山は、まるでコケが生えたように見え、これは銅が多いためだという。

山岳ガイドが付いて、肩の端にある2002年の噴火火口を一周する。この中央は現在も水蒸気を出している。南側にもやはり噴煙を出す火口がある。そのルートの石の形状は浅間山のように細かく歩きにくい。

火口の周囲の最も高い所からは前景にくっつかの残雪を置いたエトナ山が見える。そこからは南にカタニアの街も見え、北にはメッシナ海峡をはさんでイタリア本土が見える。西の方向には赤土の台地が広がり、所々に湖がある。火山灰地は養分が多く、ブドウ、オリーブなどがよく育つという。

ガイドは安全面での案内人と同時に、自然の解説人のはずだった。しかし、我々のグループにイタリア人の若い女性が入り込み、ガイドと頻繁に話す。こちらが質問することを添乗員に通訳してもらうが、ガイドはあまり乗り気のない返事で、そのイタリア娘と話している。これはイタリア人気質なのか個人の資質というべきか。この時は「イタリア人」を見たという思いであった。グループは30人ほどであったが、そのガイドの周りに日本人は殆どいなかった。

我々の自然観察会でも、全体進行はそっちのけで、若い女性とは言わないが知り合いと話す指導員がいる。当事者になって初めてわかるが、あまり心地よいものではなく不自由だ。エトナ山では自然の雄大さと共にそんなイタリア人が記憶に残った。



話が弾むガイドと
イタリア娘

私の活動紹介

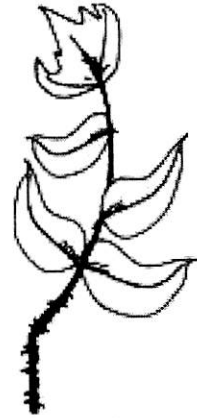
西三河支部 水谷 宗保

観察会も冬場になると草木の花が少なくなり、樹木も葉を落として枝や樹形が目立って来ます。そんな里山の地表には青々とした「シダ植物」が目につきます。そんなシダを観察会のメニューに取り入れたら、冬の観察会も豊かになり、楽しさも倍増するのではないかとシダへの扉を開けてしまった私です。

これまでは苦手だったシダなので敬遠していましたが、この際学習する事にしました。まず身近な所から始めるため、近くの里山に出かけました。

湿った岩肌には一面にマメヅタが張り付いていました。冬でも小さな丸い葉は青々として、覚えやすい名前です。その中に長い葉が混じっており、調べて見るとマメヅタの孢子葉でした。

すぐ近くに生えているヤブソテツは単羽状複葉の長い葉が群生していました。幅広い羽片の形は特徴ある姿で、すぐ覚えられそうに思えました。図鑑を開いて見ると、その種類の多さに驚きました。ヤブソテツは葉の色・光沢・切れ込み・基部の形・孢子の色形・鱗片の色形等の組み合わせにより、オニ・ヤマ・ミヤコ・ヒロハ・ツクシ・ナガハ・テリハ・ホソバ・メ等に種類が区別されています。どれに当てはまるか、まるでクイズを解くような困難な検索です。しかし、被子植物のときもヤマ・ミヤマ・ケ・ホソバ・コといった地名等の別種があるのを思い出して、同じと考えるとチョット気が楽になりました。



▲ヒロハヤブソテツ

被子植物は花が咲くのでおおよその見当がつきますが、花の咲かないシダは、葉の形や姿にそっくりなものが結構多いこともあり、見分けが困難です。しかし、よく見つめれば孢子囊の形や色や位置がチョットずつ異なるので、これを頼りに判断してゆけば答えが出てくるものと信じて、今も悪戦苦闘しています。



▲アオネカズラの前で

平成 26 年度 第 4 回理事会 報告

日 時：平成 26 年 11 月 30 日(日) 13:30～

場 所：穂の国とよはし芸術劇場プラット 2 階研修室 (小)

出席者：大谷、星野、石原、久米、森田、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、堀田、齋竹、南川、三田、寺本、河江

◆活動報告 (8 月～11 月)

あいちの自然観察会、支部研修会、フォローアップ研修、生物分類(植物分類)の研修会、協議会交流の日、E S D ユネスコ世界会議の併催イベント(あいち・なごや E S D 交流フェスタ)について報告あり。(各行事の詳細は、協議会ニュース No. 145、146 で紹介)

◆議案 来年度の行事について

あいちの自然観察会	テーマは設けない。各支部 1 回(次回理事会までに検討)
研修会(各支部担当)	各支部 1 回(次回理事会までに検討)
総会	日 時：平成 27 年 3 月 21 日(土・祝) 13:15～14:40 場 所：名古屋中小企業振興会館 4 階第 3 会議室 講 演：14:50～16:10 講 師：中西 正氏 テーマ：インタープリターの地球一周
フィールドセミナー	日 時：4 月 5 日(日)、12 日(日) 午前・午後(各 15 名) 場 所：海上の森 講 師：いがりまさし氏 テーマ：目から鱗の植物写真 参加費：1,000 円 募 集：1 月 1 日(木・祝)～1 月 31 日(土)
平成 27 年度自然観察指導員講習会	日 時：8 月 29 日(土)、30 日(日) 場 所：犬山ユースホステル予定
生物分類(昆虫分類)の研修会	日 時：10 月 12 日(月・祝) 場 所：日本特殊陶業市民会館第 1 会議室(予定) 講 師：荻部治紀氏(神奈川県立生命の星・地球博物館・主任学芸員)
協議会交流の日	平成 27 年度の開催支部：尾張支部
理事会	来年度の理事会日時・支部当番を確認
機関紙「協議会ニュース」	機関誌発行予定月の変更について提案あり。3 月(変更なし)、5 月→6 月に変更、8 月→9 月に変更、12 月(変更なし)

◆その他

次回(第 5 回理事会) 日時：2 月 11 日(水・祝) 13:30～ (名古屋支部担当)

場所：音楽プラザ 3 階(名古屋・金山)

(記録：石原)

“協議会”として、がんばっています！

協議会では、観察会や研修を実施するだけでなく、愛知県や他の団体の取り組みに参加しています。今回はその一部をご紹介します。

●自然観察指導員講習・フォローアップ研修会の開催

愛知県環境調査センターと（財）日本自然保護協会との共催で、自然観察指導員講習や研修会を行っています。

●あいち自然ネット運営委員会への参加

県内 45 の自然環境団体や施設でつくる「あいち自然ネット（あいち自然環境団体・施設連絡協議会）」の幹事として運営委員会に参加しています。

●海上の森運営協議会への参加

あいち海上の森センターが設置する協議会の委員として参加しています。

●あいち環境づくり推進協議会への参加

愛知県環境部が設置する協議会の委員として参加しています。

●愛知県海岸保全基本計画検討委員会への参加

愛知県建設部や農林水産部が設置する検討委員会の委員として参加しています。

***** 編集部から *****

今号から、表紙イラストを担当してくださるのは尾張支部の木村絢子さんです。また、新連載として東三河支部の中西正さんの「海外のインタープリテーション」も始まりました。皆さん、今後も楽しみにしてくださいね。

さて、今回の編集後記は、校正担当の岡田雅子さんです。

さまざまな編集作業の中の、校正を担当しています岡田です。

「読んでわかりやすい文章に」の大義名分のもと、皆さまが苦勞して書き上げた文章をバッサバッサと切ったり、順序を入れ替えたり、言葉を変えたりと、大変失礼なことをしております。御腹立ちの方もありましたでしょう。お許しください。

指導員の資格はあるもののフィールド経験の不足で時に大失敗。マダニが血を吸うと1センチほどにもなるとは知らず、おかしい訂正をして再訂正を受けてしまいました。皆さまの原稿を読み、自分もそこに参加している気分で楽しませていただいています。

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」 編集部	久米未祐 TEL：090-3302-1621 E-mail：ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX：052-711-3087

E-mail：noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page：http://naichi.net

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）

1. あいちの自然観察会(各支部担当) 年 6 回 テーマ: 外来種・移入種・絶滅危惧種

実 施 日	時 間	実 施 場 所	テ ー マ	参加人数	担当支部
5 月 6 日 (火・祝)	10:00～12:00	守山区小幡緑地	ふるさと親子自然観察会	45 名	名古屋
8 月 3 日 (日)	9:30～12:00	豊田市逢妻男川	逢妻川の魚の調査	43 名	西三河
8 月 23 日 (土)	9:30～11:30	東浦町須賀川	須賀川の中をのぞこう	30 名	知 多
10 月 25 日 (土)	9:30～14:00	犬山市善師野	善師野の帰化植物	22 名	尾 張
11 月 2 日 (日)	9:30～12:00	豊川市旗頭山	蛇紋岩地の自然観察	42 名	東三河

2. 研修会 (各支部担当)

実 施 日	時 間	実 施 場 所	テ ー マ	参加人数	担当支部
5 月 17 日 (土)	10:00～15:00	伊良湖	磯の生きもの観察	13 名	東三河
6 月 7 日 (土)～8 日 (日)		夜叉が池	夜叉が池周辺を訪ねて	14 名	知 多
8 月 31 日 (日)	8:00～17:00	茶臼山	茶臼山・秋の草木観察会	12 名	名古屋
9 月 23 日 (火・祝)	8:00～19:30	白樺峠 (松本市)	白樺峠のタカの渡り	6 名	尾 張
11 月 2 日 (日)	9:00～15:00	豊田自然観察の森	きのこを学ぶ	17 名	西三河

3. 総会・講演会 日時: 3 月 21 日 (金・祝) 13:30～ 日本特殊陶業市民会館 第 1 会議室

演題「日本すみれ紀行」 講師/いがりまさし氏 写真家・豊橋市在住 参加者 65 名

4. 外来種・移入種の事前学習会 4 月 29 日 (火・祝) 13:30～ 日本特殊陶業市民会館 第 1 会議室

講師 増田理子氏 (植物担当・名工大准教授)・

講師 宇野総一氏 (昆虫担当・ビオトープネットワーク中部副会長) 参加者 59 名

5. 生物分類の研修会 10 月 13 日 (月・祝) 13:30～ 日本特殊陶業市民会館 第 1 会議室

講師 増田理子氏 (名工大准教授) 演題「植物分類について」

講師 中西 正氏 (愛知県環境審議会専門調査員) 演題「渥美半島の海岸植生」 参加者 50 名

6. 協議会交流の日 日時: 11 月 24 日 (月・祝) 10:00～15:15 名古屋支部担当

場所: 大高緑地 午前: 自然観察会 昼食 (温かい汁物を用意)

午後: 交流会は分科会 (環境教育・自然観察会・保全) 実施。 参加者 43 名。

7. タケ調査の現状報告

8. 機関誌「協議会ニュース」の発行 3 月 5 月 8 月 12 月 4 回

9. HP

10. 名簿管理

11. 保険

12. 理事会 年 5 回 1 回 3/21 2 回 5/5 (名) 3 回 7/21 (西) 4 回 11/30 (東) 5 回 2/11 (名)

13. フォローアップ研修会 9 月 6 日 (土)～ 7 日 (日) 場所 庄内緑地グリーンプラザ 講義室他

講師 槐 真史氏 (厚木市郷土資料館学芸員) 参加者 22 名

14. ESD ユネスコ世界会議の併催イベント (あいち・なごや ESD 交流フェスタ)

久屋広場: 11 月 8 日 (土)～9 日 (日) 白鳥会場: 11 月 10 日 (月)～12 日 (水) ブース出展

その他

第2号議案 平成26年度収支決算報告（H26年2月1日～H27年1月31日）

収入

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	決算/予算(%)	備 考
会 費	805,000	693,500	▲ 111,500	86%	会員354名＋家族11名＋前年度未納金
保険料	120,000	92,200	▲ 27,800	77%	保険料(観察会徴収分@40円×2,437人分)
寄付金	2,000	51,360	49,360	2568%	保険代余剰金、4/29・10/13研修会講師謝金寄付(増田氏)、匿名1件
受託金	0	0	0		
雑収入	0	1,604	1,604		H26協議会加入事務負担金(500円×3名)、利息104円
前期繰越金	1,756,052	1,756,052	0	100%	
合 計	2,683,052	2,594,716	▲ 88,336	97%	

支出

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	決算/予算(%)	備 考
自然観察会費	120,000	97,480	▲ 22,520	81%	保険料(@40円×3,000人分=120,000円) 保険料返戻金(2,437人参加△22,520円)
調査費	20,000	0	▲ 20,000	0%	
研修会費	100,000	120,360	20,360	120%	4/29生物分類の研修会、10/13生物分類の研修会、ESD併設イベントに対応、協議会交流の日
機関誌作成費	360,000	301,632	▲ 58,368	84%	印刷代、送料、封筒・切手等
受託事業費	0	0	0		
事務費	295,000	221,858	▲ 73,142	75%	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費他
次期繰越金	1,788,052	1,853,386	65,334	104%	
合 計	2,683,052	2,594,716	▲ 88,336	97%	

平成26年度収支決算報告について、決算報告書並びに通帳、会計帳簿、支払い等証拠書類を監査したところ、いずれも正確で事実と相違なかったことを報告します。

平成27年3月21日

愛知県自然観察指導員連絡協議会 監事 榊原 靖
河江 喜久代

第4号議案 平成27年度事業(案)

1. あいちの自然観察会(各支部担当) 年6回

実施日	時間	内 容	実施場所	集合場所	担当支部
5月6日(水・休)	9:30~12:00	里山の自然観察	荒池緑地	名古屋市農業センター農業指導館前	名古屋
8月23日(日)	9:30~11:30	矢勝川の生き物観察	矢勝川・修農公民館・半田市	矢勝川・修農公民館	知多
8月23日(日)	9:00~11:00	水辺の生きもの	日進市		尾張
9月26日(土)	17:00~20:00	月光浴と夜の自然観察	豊橋公園	豊橋市美術博物館 正面玄関前付近	東三河
11月7日(土)	9:00~	紅葉と黄葉	面ノ木峠 豊田市稲武	面ノ木園地	西三河

2 研修会(各支部担当) 年6回

実 施 日	時 間	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担当支部
5 月 16 日(土)	8:00～	春の茶臼山の自然を満喫しよう	茶臼山 長野県売木村	豊川市一宮支所駐車場(8:00)	東三河
			現地集合の場合は、小鳥茶屋を過ぎた所の広場（10:30 ごろ）		
5 月 31 日(日)	8:00～17:00	湿地の自然	中池見湿地 福井県敦賀市	地下鉄本郷バスターミナル前	名古屋
6 月 6 日～7 日					知多
8 月 22 日(土)	9:30～	初秋の花 50 種を見よう	城山自然歩道 木曽福島町	木曽福島町駅前	西三河
10 月 31 日(土)					尾張

3. 総会・講演会日時:3月21日(土・祝)13:30~14:40 場所:名古屋中小企業振興会館 4階第3会議室

講演:14:50~16:10 講師:元協議会会長の中西 正さん テーマ:「インタープリターの地球一周」

4. フィールドセミナー 日時:4月5日(日)午前・午後、12日(日)午前 各15名

場所:海上の森 講師:いがりまさしさん。テーマ「目から鱗の植物写真」

募集:1月1日(木・祝)~1月31日(土) セミナー代参加費1,000円

5. 新指導員歓迎会&協議会交流の日 11月23日(月・祝) 担当 尾張支部

6. タケ調査の現状報告

7. 生物分類(昆虫分類)の研修会 日時 10月12日(月・祝)13:30~

場所:日本特殊陶業市民会館 第1会議室予定

講師:苅部治紀さん 神奈川県立生命の星・地球博物館・主任学芸員

8. 機関誌「協議会ニュース」の発行 3月 6月 9月 12月 (発行月変更)

9. HP

10. 名簿管理

11. 保険

12. 理事会

第1回 3/21 第2回 5/5(名古屋) 第3回 7/20(尾張) 第4回 11/29(知多) 5回 2/11(名古屋)

13. 自然観察指導員講習会 日本自然保護協会・愛知県主催 愛知自然観察指導員連絡協議会後援

日時 8月29日(土)~30日(日) 場所 犬山国際ユースホステル 貸切

第5号議案 平成27年度予算（H27年2月1日～H28年1月31日）

収入

科 目	予 算 額	26年度予算額	差 引	備 考
会 費	805,000	805,000	0	会員400名 家族10名分(@2000×400+@500×10)
保険料	120,000	120,000	0	保険料(観察会徴収分@40×3000人分)
寄付金	2,000	2,000	0	
受託還元金	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
前期繰越金	1,853,386	1,756,052	97,334	
合 計	2,780,386	2,683,052	97,334	

支出

科 目	予 算 額	26年度予算額	差 引	備 考
自然観察会費	120,000	120,000	0	保険料(@40×3000人)
調査費	20,000	20,000	0	
研修会費	200,000	100,000	100,000	○研修会4月、10月に予定 講師謝金、会場費等 ○8月末指導員講習会補助 ○交流の日(新人歓迎会も含む)運営費補助
機関誌作成費	370,000	360,000	10,000	発行回数4回、編集会議、印刷代、送料、封筒代等
事務費	295,000	295,000	0	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費他
次期繰越金	1,775,386	1,788,052	▲ 12,666	
合 計	2,780,386	2,683,052	97,334	